

2020年度 学校関係者評価委員会 報告書

〔 2020年度学校関係者評価委員 〕

南 明義 (大阪市立勝山小学校長)
川本 俊永 (勝山連合自治会長)
大野 智子 (PTA 会長)
柳瀬 正行 (PTA 副会長)
岸本 君恵 (PTA 書記)
奥井 浩子 (後援会長)
宮澤 喜代美 (後援会副会長)
三野 稔子、辻 早苗 (後援会役員)

〔 活動記録 〕

2020年11月28日 方針説明、委員委嘱、代表委員選出

授業見学(中2数学、高1聖書、高2古典、高3数学演習)

2021年2月27日 第2回学校関係者学校評価委員会

生徒・保護者の学校評価アンケート結果や教員の自己評価資料を読み込み、授業見学を踏まえプール学院中学校・高等学校に対して評価をした。以下、その意見を報告する。

〔 評価できる点 〕

- ・コロナ禍で学校生活を継続していくことが困難な中、YouTubeでの授業配信を中心に学校行事を縮小して実施するなど生徒がなんらかの形で学校生活や学校行事に携われるよう取り組まれていた。
- ・宗教教育を通し、世界の社会情勢を伝えることでグローバルに物事を捉え視野を広く持てるような教育がなされている。
- ・学校教育や学校行事が計画通り実行されていることから、生徒は社会や学校でのルールを守って生活することが大切であることを自覚・認識できていると感じる。
- ・保護者が学校教育に関心を持ち、学校と保護者が協力して学校運営をより良いものにしていこうとする努力が感じられた。

〔 今後の課題 〕

- ・コース分けをしているがしているメリットが感じられない。一貫特進コースは国公立を目指す位置付けてはいるが、実際には実力が伴っておらず進学状況は厳しいものである。今後は特殊コースを位置付けるならそれだけの学力がつくようカリキュラムや使用する教科書、補助教材等すべて見直していく必要がある。進学実績や口コミは入学生徒数に大きく影響をする。
- ・授業中、寝ているような生徒が見受けられた、生徒の興味を惹く授業内容への工夫が必要だと感じる。寝ている生徒には起きよう促し放置しないように改善してほしい。
- ・ホームページやSNS等で学校の宣伝になりそうな事柄や行事に関しては発信されているが、子どもを通わせている保護者への学年・クラス・個人の学力についての現状報告(コミュニケーション)が希薄と感じるとの声が多く聞かれているため改善してほしい。

以上